

平成 25 年度第 2 回恵那市市民評価委員会

議事録（要約版）

日時：平成 25 年 7 月 2 日（火）

午後 1 時 30 分から

場所：恵那文化センター展示会議室

-
- 1 委員長あいさつ
 - 2 会議の公開・会議録の公表について（確認）
〔異議なし〕
 - 3 議事
 - (1) 評価事業の選定について
 - (2) 評価の方法について
 - 4 その他 次回開催予定日について

出席者（敬称略）

【委員】市川美彦、大竹典子、奥村ひとみ、田口譲、柘植麻美、平野未帆、宮地政臣、
三輪哲司、山田基

【オブザーバー】竹内泰夫

【事務局】企画部長 小栗悟、企画課長 千藤秀明 企画課係長 服藤知晃、
企画課主査 橋本孝純

1 委員長あいさつ

■委員長 本年もあと半年、そんな慌ただしい中、第2回市民評価委員会を開催します。本日は評価事業の決定、評価方法について、ということですが初めての委員においては、何なりと遠慮なく発言いただき、評価委員会がスムーズに進むよう簡単ですが、挨拶とします。

2 会議の公開・会議録の公表について（確認）

〔異議なし〕

3 議事

(1) 評価事業の選定について

■委員長 議事3 評価事業の選定について、3点の資料がある。事務局から評価事業の選定にあたって、第1回の委員会において6施策の中から事業を選定し、事務局へ提出願ひ、提出があった。その資料について事務局から説明をお願いします。

〔事務局から資料に基づき説明〕

■委員長 事務局から選定事業について、昨年と違って関連する事業や地域的な事業について、包括して選定があった。また全体的に事業を選定するまでの数に達していない。このことについては、私としては委員の最大公約数が求められる形で事業の選定が必要ではないかと思いますが、ここで2もしくは3という形で選定されている事業があるが、1のみという事業もある。事業選定にあたって委員の考え方を聞きながら進めていきたい。

■委員 今回、選定した事業の中で、この委員会と市が対応している行政改革審議会と表裏一体のよう感じであり、農業施設等においては、合併する前は6市町村で農業関連施設をそれぞれ設置し、各町村の振興事務所で維持管理の事務を行っている。同じような施設がたくさんある。考えてみると合併して今年で10年になるので適正な人口を考えて施設をまとめて規模の大きい、運用のしやすい施設に再配置し、今あるものは地元等に移譲や廃止することがこの評価で対象になると思う。あと合併後、都市施設整備として都市整備がされている。都市計画税は旧恵那市の大井町、長島町が課税され、山中や茂立などの都市施設の無い地域でも町の字で都市計画税が課税されている状況であり、当然、都市計画に準ずるような道路整備がなされていればそれと一体的にマスタープランを作り、恵南地域でも都市計画税が課税でき、そして少しでも恵那市が体力を付けられるような整備の仕方をする必要がるのではないかとということで、この点について括弧書きの中で入れた対応となる。行革と外部評価とのからみで一体的な中で絡みがあるので検討してもらえればありがたい。

■委員長 次の委員。

■委員 施設の中で知らない施設があったので、本当に必要なのか検討していきたく提案した。

■委員長 次の委員。

■委員 その前に1つ聞きたい。私はこの行政評価の歩みを見せてもらったが、市の中での評価は全ての事業について行っているのか。評価はいつやるのか。

■事務局 内部の評価は担当課で行っている。

■委員 やっているとすると、私が疑問に思ったのは行政提案事業について、私は順位を付けたが、選定の理由等々について市の職員の記入を見たが、こんなことぐらいは市役所の中で解決してくるべきことであり、これらを我々に評価しろということはどういうことか。私は少なくとも市の職員がそれぞれの担当の中で、一切タッチせず評価委員会へそのまま提出されているとしか思えない。もしそうだとすると600近くある事業を誰がどこで何をチェックしているのか、私は疑問に思いながら見させてもらった。前回の評価事業で課長から報告があった委託事業が入札の結果が58円で落札したとの報告があったが、これは真剣にやった結果ではないと思う。今回、市役所から出した行政提案について、色々と評価した結果がこのようなことで出てきたので、これではだめなのでこの委員会で検討しろということであれば、仕方がないのだが私はそうではないと思う。これらの事業はほとんど、まったく意味の無い事業がたくさんある。これは、評価する前の問題である。このように感じられる事業がたくさんある。そういう意味でいうと、実際、市の評価をそれぞれの担当課で行っているとなるなら、全くやっていないことと一緒にある。少なくとも各課の中でこの事業について、事業を継続しなくてもいいという判断があってもいいと思う。これがないというのなら600余りある事業の中から評価委員が選ぶと、あるいは行政からの提案で出してもらった事業について、その中から3つ選ぶとなると、皆さんが選んだ60近くの事業の中から12から13選ぶことになると、全体の評価はそれだけしかやっていないと思う。行政は、それぞれの事業について、それぞれ真剣に1つ1つ取り上げて、検討したかというとは皆無だと理解せざるをえない。こんなことを我々が評価した、それは市民の声を聞き外部から評価してもらったというようなことを我々に言われるなら、委員長、それは少なくとも私どもがやっていることは、そういうやり方を市がやっているならやる必要がないと思う。委員長どうか。

■委員長 今の委員の質問に対してどのような、特に試行委員会を含め3回目です。それまでは、行政内部の評価委員会があった。その中で評価をしても、それだけでは手前味噌だから市民の目線で、現在の市の事業について、評価をしていこうという流れで行っている。その過程で行政内部の評価がされているならば、提案された行政提案の中身は其中で十分評価でき、方向付けできるのではないかという話しである。回答をお願いしたい。

■事務局 昨年までは事業の選定にあたっては、この委員会だけで選定してもらっているが、行政からも評価してもらいたいということで出していく中で、企画課で提案しました。その中で委員から評価が甘いのではないかと指摘があったが、例えば、健康祭などは恵那市としては、市民の皆さんに健康を意識してもらい、健康について考えてもらうことは重要なことだと思っているが、長年続けている事業であり、これは委員の皆さんがどのように思われているかそのようなことを聞きたくて出している。

■委員 私はその問題は比較的、ある程度納得できるが、それ以外の事業は、「このような事業を評価しろというのか」と思うものばかりがほとんど。これは企画課で選んだのか。あまりにもひどいので否定してもらえということか。そういうふうにしかならない。

■事務局 そのように捕らえられたということは、私どもの選び方がまずかった。

■委員 選び方がまずかったということではなく、たくさんある事業の中で選んだということは、これは少なくとも企画課から見たらそれぞれの課の評価がとても甘いので、企画課としてこの評価委員会で検討しろということか。

■事務局 事業そのものについて、いい面を評価してもらうものもあるので。

■委員 それが2つ、3つとあるかもしれませんが先ほども言ったが、行政の各課が評価した結果だと、そのものを持ってきて委員会で評価する。そうであればこれらはまったく評価が出来てなく、評価はしていないのでこの選定理由が書かれている。私は取り上げて欲しい順序は記入したが、これらは選定理由を書く以前の問題である。これは少なくとも評価委員会として評価すべき事業となれば、この委員を降ろさせていただきたい。この程度の意識でどうにかしろというのは、大間違いである。ここにあるが例えば、岩村振興事務所のものでも修善寺の交流事業が23万円あるのみで、132万7千円の予算がある。これ1つ見てもそうだ。勤労者融資でも4千万円の予算があるが、融資額が90万円とある。おおご遺跡も利用者が0人というものを何で評価しなければならないのか。課の中で、なんでそんな検討ができないのか。意識的にみていない。少なくとも前回のアミックスについては、2つの課に係ることは必要ないということから200万の削除ができたと報告があったが、それはどういうことかと聞いたらアミックスにまけてもらったという説明があった。そのような意識で市の事業に対しての予算組みはまったくいい加減なものだと、前任者が作った予算を今年度は200万少なくしとけ、300万円多くしとけという意識でしか受け止められない。この委員会で大変真剣に検討するが、その意識が市の職員にみえない。それをこの中で評価しろということなら、私は辞退させてもらい、そのことを皆さんに訴えていきたい。私は降ろさせていただきたい。

■事務局 例えば、おおご資料館があるが、これは阿木川ダムの下にある。これは相当利用について、疑問なところがある。実際に見てもらい有効な活用方法があるのではないかという思いがある。それについて、評価委員会に諮らなくても、その思いは進められる

と言われればそのとおりだが、ここでも評価してもらい…。

■委員 評価に値しない。125万9千円ありながら入場者がいない。テニスが13回あったとあったがこんなものに予算を付けることがおかしい。

■事務局 今は、管理のために物をおいたりした活用をしていると思うが、一度現場を見てもらいながら評価をしてもらったらどうかと提案した。

■委員 提案というが、これは課の中で処理する問題。全ての事業はそれぞれの課で考えて、このようにやろうとやってきているが、5年経ち、10年経って、あるいは前任者が色々やってきたが現在の趣旨と合わないと、課の中で検討して、このように考えた結果でこのようになったとなればいいが、各課は何もやっていないのではないか。いかにそれぞれの事業に対し、真剣に取り組んでいないということが分かりすぎます。

■事務局 もう少し選定の…

■委員 選定ではない。このような事業を選ぼうとしたらたくさんあるということ。

■委員長 この経過について、当初は試行委員会では、行政が選んだ事業を評価した。2回目の試行委員会では、全て委員が6つの主要施策の中から選定した。その中で行政側からも評価してもらう事業はないのか、という指摘から前回からそのようになった。それで内容の問題として、行政としても行政評価委員会を内部にもっており、副市長が委員長でやっている。それはやはり行政内部のことを行政が自ら評価することは、身内的なことになるので、この委員会を作ったという経過がある。今、委員が言われるように少なくとも行政内部に評価委員会があるとすれば、その中で方向付けできる事業について、わざわざここまで出す必要はないのではないか。むしろ、その責任において、その中で行うこと。例えばおおわご遺跡資料館等については、入場者が0であり、1週間全て開館しているのではない。また市民への周知がされていないので、ここにこの施設があるということが分かっている。このようなことが入場者がいないことになっている。この点を含め、どのようにするかは、文化課でもう少し行政の努力でできるのではないか。わざわざ評価委員会に投げ込んで評価してくださいというまでの課題ではないかという趣旨の意見がおおわご資料館のみならず、多くの課題がある。市民評価がこのような結論を出したので、逆に初めて結論を出すというふうにとらえかねない。今回は、そういった前提で担当職員も1年の異動で大変だと思うが行政の提案を全てということではないので、今回はこういう意見があるので、出された事業について審議していくことについて是か非かについて、ご意見を頂いた上で決めていきたい。

■委員 前回までは委員が選んだものをこちらで評価するという形でやっていたが、バランスを考え、行政からと委員からの両方の提案でみていくことは大事だが、先ほど委員が言われたが、行政側がどういう想定をして、どういう意識でこの事業から選んでくださいというのが分かり難い。この辺りを明確にしてもらえるとやる気が出る。私は個人的に出

したのは、まちづくりに参加し、予算の使われ方に疑問を持った。それと地域間交流とかまちづくりについて、恵那市はどのように考えているかを中心に事業を選んだ。

■委員 行政提案について、私も良く分からないが、おおわご遺跡資料館について利用を考えると話にならないような数字だが、もしかすると文化財という恵那市が保護しているというウエイトが高いのかと思い、私は選定した。そういう意味からも私が見ている面からでは分からない何かがあるかもしれないと思う。委員の選定事業については、皆さんに色んな意見があり、なるほどというものばかりなので、選定数の多いものから選定すればいいと思った。

■委員 私は選ぶ時に自分が分かることから、少しでも関わったことがあることから選んだ。やはり中に入ると分かることがあるので、この評価に活かせるの良いなと考え選んだ。私が選んだ事業は、自分の仕事で知っていることもあるが、仕事をもらう立場では何も言えなかったが評価委員の立場では、意見を言えることから自分の知っていることを選んだ。おおわご遺跡資料館については、全然知らなかった。行政提案については、素直に受け入れこの中で選んだ。委員からあったが内部でできることをしてから出すことも分かる。ここに委ねられたというのも分かる。両方分かる。600 の事業についても、自分の知っていることから選んだ。

■委員 無駄な資産や施設がたくさんあり、選ぶのに大変だった。児童も大切だが老人も大切。自治会で役員を父親がやっているが、自治会費が2千円で年寄りにとっては高額で、自治会を脱退する人もいるし、苦しいという人もいる。無駄な施設や無駄な人材について、この資料を見るとまったく知らない未知の世界に入り混乱してしまった。こんなに税金が使われていたのかと思い、参加しないと損だなと思いました。聞きたいことがあるが、事務一覧表で敬老事業について、75歳以上の老人に敬老金を出していたと思うが、今年は77歳からなのか。

■事務局 以前から77歳から支給している。地域により上乗せをして75歳から支給している地域もある。

■委員 長生きをされる方も少ないし、働きたくても介護しなくてはならない方もいる。児童も大切だが老人も楽しみがなくては生きていくのにちょっと。私も自分が年を取ったときにつらいなと思うので、もう少し年齢を下げて、給付金も上げてはどうかと思う。

■委員長 行政提案についての、問題提起があり意見を聞いているが見解を。

■委員 維持管理を行政評価しても、維持管理だけの評価になる。本来なら主管課が将来の展望なり、色々と話を聞ければいいのだが、これは振興事務所が維持管理するだけの予算となっている。本来なら農業施設なら農業振興課が今後のビジョンを作ったりすれば、評価はしやすいが、各振興事務所が施設の維持管理をする予算では、ここで切ろうと思うとそういうことになる。いいのかどうかという疑念がでる。

■委員 行政評価について、委員がいわれることも分かるし、各課で精査すればいい場合もある。各課でどうしようもないので、我々が要らないといえどそのようになるのかという思いもある。どう見てもおかしなお金の出方をしている。このままにしておいても金食い虫になってしまう。地元の人の意見を聞いても難しい。我々が結論を出して良いのか。おおわご遺跡資料館がどこにあるのかもしれないし、テニスコートも利用が少なければ無くしてしまえばいいと思った。それをなくしましょうといえど良いのか、文化課が出しているが私達に結論を求めているのかどうか聞きたい。

■委員長 あくまでもこの委員会は、市長に対して提言をすることである。予算執行権者がその提言を受けて判断することになる。その提言が指し示す方向がはっきりしたものであれば、市長において考えようということになる。あくまでも提言です。

■委員 行政事務は大変ある。事業を知らない市民も大変いる。基本的には誰でも分かる事業を進めてもらうということで進んでいる。それがなかなか早く成果が出ない。それをしようとする市民の代表の人に素直に評価してもらって、その方向に行きやすくなる。提案した課題は、こういうふうにしたいという思いがあると思う。それと、600ある事業から選んでもらったが、まったく知らないということは選びにくい。選ぶとすると、鉛筆を投げて、出た目で選べば無作為に選べるが、我々の知っている範囲で選んでいる。成果に早く結び付けようとする色々と問題がある。提案をすると、執行部が選択するので、私は素直に委員が選んだものの中から選べばどうか。

■オブザーバー 600ある事業の中からどうやって選ぶかという問題を議論されていると思うが、たぶん委員が言いたいことは1次評価がなっていないということがいいと思う。1次評価は確かにマンネリ化している。なぜかという成果指標があまりしっかりしていないとか、費用便益比がめちゃめちゃな数字になっている。前任者がやったとおり新しい数字を入れただけなので、自ら改革しようという意気込みは感じられない。また以前は、行政内部の行政評価委員会があり、その中でかなり議論されていたがそれが今はないので、いわば、この委員会に全部預けられてしまっている。逆に言えばこの委員会がすごく大事になってきている。話をはぐらかすと事業評価も大事だが、今度、総合計画が新しくなるので、長期的な視点で市がどういう施策に力を入れるべきかという議論の中で事業を位置づけていく方法もある気がする。確認だが、去年、一昨年では、部単位で選んだ時があったと思うが、今年は企画で選んだのか。

■事務局 はい。

■オブザーバー ということは、意図ははっきりしており、企画課がいらないと思っているんじゃないですか。

■委員 先生がいうように行政は評価をしていないのではないかな。

■事務局 1次評価は、担当課の中での評価が中心となっている。

■委員 やるのが望ましいということではないか。現実的にやっていないのではないか。

■オブザーバー これは皆さんが選んだ 67 事業について、現課がどのように評価したかと

■委員 3 年位前のものを順番に書き換えているのではないか。まきがね公園でやっている健康祭について、マンネリ化が進んでいるので市民の評価を聞きたいと理由にあるが、そうではない。参加する人に色々と意見を聞いて、その中でそれぞれの課が取り入れてやってきたと、それでどうでしょうかということならいいが、何もやらずに評価しろとは違うと思う。先ほどから言っているが全ての課で評価しているかもしれないが、それであるならこのような書き方にならないと思う。市民の声が聞きたい、あまり意味が無いというようなことが書いてあるということは、課の中で評価していないということではないか。

■オブザーバー この理由は企画課が選んだので企画課で書いている。現課が書いたのではなく企画課がこの点を留意してみてくださいという意味で書いているのではないか。

■委員 そういうことを理解して、この範囲で選んでやっていきましょうということになるのか。

■委員長 委員から行政提案の事業評価について、根拠は選定理由と思うが、選定理由を少し、この事業に対する根拠が少し分かりづらい。この場面についても議論して欲しいということでないか、おおわご遺跡資料館はまるっきり入場者がなし。今後、市民の財産という立場で、市民の立場の評価委員会がどう評価しますかと、それはやはりやれということになるかと思いますが、行政提案の事業について、根拠も逆に 100 歩譲って中身は別として、評価委員会が評価できうるような、前提理由でないと分析してもここにいる人はこれに長けている人もいれば長けていない人もいる。なかなか難しい。非常に全ての委員に意見をもらい様々な意見もあるが素直に出された事業を選定したという認識があったり、庁内における 1 次評価というものにおいて、充分、庁内において評価をし、実行せしめて、わざわざ評価委員会まで提出しなくてもいい課題。ということから整理していくと、出されている事業についてはもう少し、先ほどの 2 番目の健康祭の問題は、以前は色んな分野の実行委員会を立ち上げて、実行委員会を通じて動員をかけていた。ここ 2、3 年は担当課でやっている。聞くところによると今年の参加は少なかったと聞いている。これは場所の問題だと思う。意識のある人しかシャトルバスには乗らない。やはり行きやすい雰囲気作りをどこで作るか、そういう 1 次評価である担当課で、単年の予算により行うので、その事業についての成果でよかったところとそうでなかったところを検証して、次の事業に対して予算を付けるのか、行政はやっていると思う。そうすればこの課題はの中でクリアする問題ではないのか。というものをへぐして、全てここに出せばいいのではないという意見があり、このことについて不審を持ちながら評価をしても意味の無い話だと思うので、まず行政提案について、この後の皆さんから選定してもらった事業について選定する方法を議論したい。

■委員 この議論を何回進めても進まない。

■委員長 この委員会で大切なのはここです。あとは、事業の説明を皆さんがどう受け止めるかで提言書が出来る。事業を選定することが一番、大切なことなので、委員長は忍耐強く時間をかけて皆さんの意見を聞きまとめて行きたい。

■委員 こういう意見が出るということを知らない人もいる。使っていないところに予算を使っている。ちょっと難しい。

■委員 私は行政提案から選ぶと思っていたが、皆さんの意見を聞きながらここで決を採るのも一つの手でもある。委員選定事業についても、1つから多くて3つしかない。どうしても評価したいという思いの強い1と、選べといわれたから選んだという軽い1がある。重い1と、軽い1があり思いの強い1を選んだほうがいい。

■委員 ここで差し戻し行政提案をやらないというのも1つ手段であるが、終わりが見えない。担当課の努力が足りないのならこの場に来てもらい緊張感を持ってもらってはどうか。

■委員 行政提案だが、委員が選定した事業を評価するだけでなく行政が提案する事業も評価することは大切なので、行政が提案する事業も評価したい。他の事業からこの事業を選んだか理由が聞きたい。

■委員 先ほど、この席を外そうかと思ったが、おおわご遺跡資料館について、部長が一度見て欲しいと言われ、その中に使わないものが入っていると言われたが、そのようなものを評価する前に消したほうがいい。4千万円の融資についても、1件の貸付であったことについても予算を4千万円持っていることはどういうことか。役所が選んだ事業は、役所の中で評価をしているのかと疑問に思ったので発言したが、オブザーバーからも意見を聞いたので、皆さんの思いでやってもらえればいい。昨年と同じような方法でいいのではないか。我々が評価して良かったというようなものを皆さんで選ばばいいのではないか。

■委員 昨年と同じような形で、聞きたいこともあると思うので、聞きながら見たほうがいいものは視察をしたらいい。

■委員 昨年と同じようにコンセンサスを取りながらやればいい。行政提案にしても職員と目線が違う。これから頑張りたいという部門と、日ごろから困っており、ここでお墨付きをもらいやめるという目線の事業がある。

■委員 自分たちで判断できないので、この委員会で評価をもらってその方向へ行くということか。

■事務局 そこまで言ってしまうと提案にならない。

■委員 望ましいことはそこになるのか。

■事務局 それは意図していない。素直に評価委員に評価してもらいたい。実際、各課を呼び聞き取りをしてもらい、現地視察をしてもらい審議して欲しい。

■委員 思うに部長が言うとおりでと思うが、担当者は事業を続けているものを辞めるとは言いづらい。それは素直に言い切ることに利用されると思う。それはそれでいいが、結論は昨年同様でいい。内部評価では自分で評価すると、いかに良かったと誇張していることがある。素直に評価して、まずかったと、1千万円を使ったが効果はなかったという評価はしたくないが、本来それをしなくてはならない。私は評価を見てやるといいが、それだけ時間が無い。行政が提案したものを見ると。評価というのは難しい。どこで金額をつかむのか。一番、簡単なのは金額をつかむことだが、結論は昨年と同様、評価は限られた時間でやるので能率よく、結果を出すように。

■委員長 皆さんから意見をもらったが、この行政からの提案については5事業やるということに。ここで注文を付けたい。当然、1次評価されると同時に担当課で十分対応できるものまでについては、それで処理してもらおう。それ以外について、行政提案として出しってもらう。苦言をし、行政提案を評価するということがいいか。

〔はいの声あり〕

■委員長 事業の選定とするが、点数の多いものから選定するということがいいか。

〔はいの声あり〕

■委員長 それでは、9984 経路事業、9975 健康祭、9872 ヘリポート整備事業、10171 おおわご遺跡資料館維持管理経費、9631 地域間交流推進事業とする。それから各委員からの選定事業について、6つの主要施策から最大で3、そのほか2か1だが、これらのものから最終的に皆さんの総意で選定事業を決めていきたい。6つの柱立てとなっているが、7つを選ぶ。昨年もこのようなばらつきがあり、全体で決めづらいということがあり、委員会を2つに分けて決めた。今年も委員番号の奇数番号を1グループとし、偶数番号を2グループとし、分かれて決めていきたい。施策の1, 2, 3を1グループ、施策の4, 5, 6ともう1つの議案を2グループで決めてもらう。それでは委員会を暫時休憩する。

〔1グループ、2グループと分かれて選定作業を実施〕

■委員長 休憩前に引き続き会議を再開します。2つのグループにおいて、選定された事業について、報告します。第1章では、9595 幼稚園・保育園の一元化、第2章では、9671 森林整備地域活動支援事業、第3章では9563 都市計画道路・用途見直し事業、第4章では、9610 まちなか市の開催、第5章では、2事業あり、9683 恵那峡ハーフマラソン開催事業、9725 中山道広重美術館事業、第6章では、9768 国際化に対応できる人づくり・まちづくり。先ほどの5事業と7事業の12事業と決定しました。決定後に、委員から第4章から9950から9960までの各地域の農業関連施設維持管理経費について、加えることができないかという意見があったがどうか。

■委員長 皆さん、頷いているので新たに第4章の9950から9960までの各地域の農業関連施設維持管理経費事業についてを加え、委員からの提案が8事業、行政からの提案が5

事業の 13 事業についてを評価していただくことに決定したのでよろしくお願いします。選定事業については決定しました。

(2) 評価の方法について

- 委員長 それでは評価の方法について、事務局から説明をお願いします。
- 事務局 (資料により説明)
- 委員長 ただいま、資料 4 により説明があったが質疑はありませんか。
- 委員長 昨年までの様式から訂正があった。評価委員会の皆さんが細かく色んな点についての問題提起ができるようにしたので、これにより評価をお願いします。

4 その他 次回開催予定日について

- 委員長 それでは、その他の次回開催予定日について、第 1 回にスケジュールを示されている。8 月中旬となっている。担当からの事業説明、ヒアリング、12 事業を一度にということではなく 6 つずつで 2 日に分けている。皆さんの意見を聞きたい。これには現場でヒアリングを受けるものもある。現場に行かなくてもヒアリングを受けられる事業もあるので、このあたりを事務局で決めてもらいたい。
- 事務局 先ほどの追加事業について、7 事業があるので 2 日から 3 日かかると思われる。委員から複数の日程案をいただけるとありがたい。
- 委員長 8 月の中旬ということだが事務局としていつを考えているのか。
- 事務局 事務局の都合ですが、今回、事業決定頂き、これから担当課に資料作成を依頼する。これらを考えると 1 ヶ月から 1 ヶ月半の時間をいただきたい。委員の都合もあるが 8 月のお盆前後にさせていただけるとありがたい。
- 委員長 8 月 16 日の都合はどうか。
- 委員 先であり、都合が分かりません。
- 委員長 それでは第 3 回を 8 月 16 日に決定し、第 4 回は 8 月 16 日に決定するということではよろしいか。
- 委員長 8 月 16 日金曜日に決定する。残りの事業については、8 月 16 日のヒアリングを受けて決定する。
- オブザーバー 以前は、事前に質問事項を受け付け各課に渡していたが今回はどうか。
- 事務局 今後のスケジュールについて、各課に資料の作成を依頼し、資料を委員に送付をします。その際に質問表を作成し、同封します。2 週間前には届くように努力します。
- 委員長 13 事業について、各委員からのヒアリング前に質疑を受け、ヒアリング時に担当課から説明を受ける。
- 事務局 提出期限につきましては、資料に記入しますのでよろしくお願いします。

■副委員長 事業の選定について、色々と意見をいただいた。昨年と同様の形となった。全部で 19 事業となった。次回は 8 月 16 日金曜日になる。それまでに資料が届くので、非常に長時間、お疲れ様でした。

[15 : 18 閉 会]